

第27回 全国バズ学習研究大会

主催 全国バズ学習研究会 尼崎市「個を生かす指導法指導演法研究会」
後援 兵庫県教育委員会 尼崎市教育委員会

大会テーマ

個を生かす指導をめざして

— 生き生きと学ぶバズ学習 —

日程・学習指導案集

平成5年 2月10日(水)

小学校・全体会場 尼崎市立上坂部小学校
中学校 会場 尼崎市立大庄東中学校

参加者の皆さまへ

大会会長 池田 洋
(尼崎市個を生かす指導法研究会会長)

本日は、第27回全国バズ学習研究大会にご参加くださりましてありがとうございます。
バズ学習研究会の全国大会を、尼崎市で開くことができますことをとてもうれしく光栄に思います。大会を開くに当たりましては、兵庫県と尼崎市の両方の教育委員会からのご後援をいただき、会員一同に大きな励みとなりました。ありがとうございました。教育委員会のご後援の名を汚さないように、「尼崎市個を生かす指導法研究会」の会員一同が、大会成功に向けて一丸となって誠心誠意お世話させていただきますので、よろしく願いいたします。

ところで、なぜ「尼崎市個を生かす指導法研究会」が全国バズ学習研究大会を主催しているのかと疑問に感じている方がおられるのではないかと思います。尼崎市では、小・中学校の有志教員が集まって、平成元年8月に「個を生かす指導法の研究ならびに実践を促進し、会員相互の連携協力を図ること」を目的として「尼崎市個を生かす指導法研究会」を発足させました。この会は、この目的を達成するため、「バズの手法」を生かして ① 集団における人間関係を高める ② 自己表現力を高める ③ 学習方法を習得させる ④ 基礎・基本の定着を図る研究を行うこととしています。つまり、バズ学習の学習指導方法を積極的に取り入れて、新しい学力観に沿った学力を身につけさせる目的でつくった尼崎市内の研究団体です。したがって、本家の全国バズ学習研究会とは、絶えず連携を保ちながら指導・援助をしていただいております。

しかし、相互に連携を保っているとは言いまして、尼崎市で全国大会を開いて欲しい、という依頼を受けたときは、正直言って、わたしたちは躊躇しました。と言いますのは、バズ学習研究に取り組んで日が浅く、全国レベルの大会を開く程の理論も実践も、まだ持っていないからです。しかし、いろいろと検討をする中で、尼崎での開催を承諾しました。それは、次の2つの考えからでした。

1つ目は、長い歴史をもっていますバズ学習研究会も、学校ぐるみで取り組んでいる所が少なくなって、25・26回大会ともに公開授業のない実践研究発表会しか開くことができませんでした。研究会の活動を活発にするためには、学習指導理論の研究大会が具体的な公開授業をとおして論じられることが必要であると思っています。

2つめには、非常に荒っぽい考えではありますが、全国の実践家を尼崎にお招きし、その豊富な実践を発表していただき、その成果を身近に学ばせていただくことによって、尼崎のバズ学習研究興隆の起爆剤にしたい、ということでした。

そこで、今大会を引き受けるに当たって、午前中は尼崎の「個を生かす指導法研究会」が、公開授業と分科会を責任分担し、午後は全国バズ学習研究会が中心となって、全国会員によるバズ学習の普及と実践交流の場としていただくという方針を立てました。

公開授業につきましては、学校ぐるみの取り組みが望ましいのですが、全国大会という名に圧倒されて実現できませんでした。しかし、学校を会場にできたことと、中学校では、学年の支持に近い形で公開授業ができたことは、大きな収穫でした。ただ、尼崎でのバズ学習研究の取り組みの日が浅いために、一般的な小集団学習に比べてのバズ学習の優位性を実証すること、また、1時間単位のバズ学習から単元単位のバズ学習への必然性と有効性を明らかにすることができませんでした。今回は、グループ内の討議を通して、一人一人の子どもが意欲づけられ、相互に高め合い、結果として理解を深め合っている姿をご覧ください。

分科会の提案は、短い期間での個人的な実践ですが、提案者がバズ学習を導入してその有効性を発見して自信を深め、学級経営や教科指導に更に意欲を燃やしつつある報告を聞いてください。わたしたちは、参会者の皆さんの豊富な実践に裏打ちされたご助言をいただきたいと願っています。

午後の実践研究発表講座では、個人的にはもちろんのことですが、学校や地域の中で協同して積み上げて来られた発表が期待できそうです。毎年、1人の持ち時間が短くて、発表だけで討議と交流の時間がないということを耳にしますので、今年は、1講座1発表としました。討議の時間を十分にとりましたので、お互いの実践の交流が深められるものと期待しています。

基礎講座は、岩田先生の豊富な実践に基づくバズ学習入門の講話です。具体的でわかりやすい話ですので、聞かれた人はすぐ明日から実践してみたいくなることでしょう。

応用講座は、アメリカで最近注目されている協同学習が、バズ学習の考え方と酷似しているので、両者の比較研究論について講話していただきます。30分程は、質疑応答に当たりたいと思いますので、活発に質問してください。英語での質問は、大歓迎されることでしょう。

研究大会の最後は、愛知県全域の現場の先生と日常的に実践交流をされ、ご子息の通っておられる小学校のPTA会長もしておられる、中京大学の杉江修治先生の記念講演で締めくくっていただきます。「新しい学力観とバズ学習」というテーマで、約1時間お話をさせていただきます。今日的な課題に、わかりやすく、具体的にこたえていただけるものと大いに期待しています。

平成4年2月10日の全国バズ学習研究会役員会で、第27回大会が尼崎市で開かれることが決って丸1年間、わたしたちなりに精一杯準備してきました。準備不足、不手際、不行届きなことが多々あったことと思いますがご容赦ください。たしかに準備は気苦労の多いことでしたが、全国大会を尼崎で開催できたことによって、この種の研究大会に参加したことのない尼崎市近辺の方が、この参加を契機に、バズ学習のことに興味を持ってくださって、研究の輪が広がってくれたならば、とても嬉しい限りです。

最後になりましたが、寒さ厳しい中をおいでいただきましたご参会の皆さま、及び、今大会の開催に当たりまして、講師・助言・実践発表・授業・司会・記録を務めてくださった関係の先生方、運営の面でいろいろと支えてくださいました春日井市のバズ学習研究会事務局の皆さま方に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

1. 日程

9:40 10:20 11:05 11:20 12:30 13:20 14:40 14:50 16:30

上坂部 小学校	受付	公開授業	移動	分科会	昼食	研修講座	移動	全体会 講演会
------------	----	------	----	-----	----	------	----	------------

9:10 9:40 10:30 10:50 12:00

大庄東 中学校	受付	公開授業	移動	分科会	バス 移動・昼食（上坂部小学校に合流）
------------	----	------	----	-----	------------------------

2. 小学校公開授業（尼崎市立上坂部小学校）10:20～11:05

年	教科	教室	授業者（所属校）	題材（単元）
1	学活	2-3	西村久美子（尼崎・潮小）	おもいではっぴょうかい
3	国語	理科Ⅱ	岸本富士子（尼崎・園和北小）	ソメコとオニ
5	社会	5-1	小野 宗一（尼崎・上坂部小）	国土の自然を守る
6	国語	多目的	坂部由里子（尼崎・大島小）	きつねの窓

中学校公開授業（尼崎市立大庄東中学校）9:40～10:30

年	教科	教室	授業者（所属校）	題材（単元）
2	社会	2-1	大西 宏道（尼崎・大庄東中）	開国をめぐる幕末の動き
2	道徳	2-2	大龍 雅子（尼崎・大庄東中）	思春期の心

3. 小学校分科会（尼崎市立上坂部小学校）11:20～12:30（70分）

分科会	教室	提案者（所属）	司会者（所属）	助言者（所属）	記録者（所属）
低学年 部会	第2 理科室	細川 洋子 （尼・武庫南小）	小野 俊子 （尼・開明小）	黄楊 荒雄 （尼・教総セツター） 丸山 正克 豊川・天王小	枝根 富子 （尼・北難波小）
高学年 部会	多目的 教室	市来 初義 （尼・園和北小）	川島 正樹 （尼・武庫東小）	池田 洋 （尼・大島小） 阿部 吉一 （春日井・高森台小）	北川 明子 （尼・園和小）

中学校分科会（大庄地区会館）10:50～12:00（70分）

分科会	教室	提案者（所属）	司会者（所属）	助言者（所属）	記録者（所属）
中学校 分科会	大庄地 区会館	井上 公哉 （尼・大庄北中） 原口 政一 （尼・園田東中）	里見 一郎 （尼・若草中）	金生 鐵雄 （尼・南武庫荘） 望月 和二郎 東京・菊華高	長谷川洋子 （尼・大庄東中）

4. 分科講座 (尼崎市立上坂部小学校) 13:20~14:40 (80分)

(1)基礎講座 (多目的教室)

テ ー マ	講師 (所属)	司会者 (所属)	記録者 (所属)
これからバズ学習を始める人のために	岩田 鎮人 (春日井・鷹来中)	山本 公一 (尼崎・開明小)	渡辺 千枝 (尼崎・清和小)

(2)実践研究発表講座 (各教室)

教室	テ ー マ	発表者 (所属)	司会者 (所属)	助言者 (所属)	記録者 (所属)
① 6-1	自ら学ぶ意欲を高め、一人一人が生きる算数教育	藤田 浩実 (春日井・篠原小)	熊谷 一文 (春日井・篠原小)	鹿内 信善 (北海道大学)	加嶋 雅代 (尼崎・大島小)
② 6-2	子どもがのりだし、見つけ、ねりあげる算数の授業	室谷 重治 (滋賀・伊吹小)	田村 洋子 (尼崎・武庫小)	松原 敏浩 (大同工業大学)	吉村その子 (尼崎・大島小)
③ 6-3	相互活動を生かした道徳の授業	小河 直子 (春日井・牛山小)	田川 正樹 (春日井・玉川小)	小石 寛文 (神戸大学)	西谷 昌子 (尼崎・立花北小)
④ 6-4	数学科における個を大切にするバズ学習	鈴木 敏史 (土岐・泉中)	坂野 直樹 (土岐・泉中)	久保田 滋 (東京・目黒教育研究所)	乾 雅雄 (尼崎・常陽中)
⑤ 5-4	思いやる心あふれる生徒の育成をめざして	岡田 直之 (春日井・鷹来中)	武田 広也 (春日井・鷹来中)	伊藤 篤 (日本福祉大学)	福原 正隆 (尼崎・南武庫之荘中)

(3)応用講座 (第2理科室)

テ ー マ	講師 (所属)		司会者 (所属)	記録者 (所属)
今後のバズ学習のあり方	ル・パル・ショーブ (名古屋商科大学)	宇田 光 (松阪大学)	有川 勝久 (尼崎・成文小)	吉田 幸子 (尼崎・尼崎北小)

5. 全体会 (体育館) 14:50~16:30

司 会 谷 口 寛 二
(尼崎市立上坂部小学校)

- ・主催者あいさつ 第27回 全国バズ学習研究大会会長
全国バズ学習研究会会長
- ・来賓あいさつ 兵庫県教育委員会 阪神教育事務所長
尼崎市教育委員会 教育長

池 田 洋
今 尾 啓 一
竹 内 暉 雄
山 田 耕 三

- ・記念講演 演題 「新しい学力観とバズ学習」
講師 中京大学教授 杉江修治 先生

- ・閉会あいさつ 研究大会副会長 河嶋孝之

共同研究の

学習指導案について

平成4年11月12日

谷口 寛二

(尼崎市立上坂部小学校)

1. 授業者の意図がわかる指導案づくり

学習指導案には、作成者の授業に対する考えや指導方法などが凝縮されています。そこには、作成者の教育観や指導観も伺えます。これから展開される授業について具体的に説明しているのですから、指導案は、作成者の授業のシナリオと言えるものです。したがって、誰でもその指導案をもとに授業をすれば、指導案の意図する授業に近いものが再現できるはずですが、授業がうまくいかない場合は、指導案を書いた人の実力不足（教材研究の不足、子どもの見方の甘さ、授業の構成力の弱さ）か、授業者の授業技術の拙さということになります。言い換えれば指導案の出来不出来は、作成者の実力を表しているといっても過言ではありません。

2. 共同研究における指導案の統一

共同研究の場合、ある一定の理論に沿って授業が進められるのですから、学習指導案の形式と内容の統一は不可欠です。

本会は、研究テーマに「個を生かす学習」と「バズ学習」を掲げておりますので、指導案にはそのことが読み取れなければなりません。ですから、授業では、

- ①「個を生かす」とはこの授業ではどんなことをさし、どうやって育てようとしているのか、の記述がいきます。また、
- ②授業のどの場で、どのようなバズ学習をしているのかがわかることも大切です。
- ③学習指導法の研究でもありますから、1時間の学習指導課程についても考えておく必要があります。さらに授業の背景には、指導観の根底となる
- ④学習指導要領の趣旨である 自ら学ぶ・能力の育成・基礎・基本の徹底・個性を育てる、などのつながりも考えておかなければなりません。

3. 本会の指導案の形式についての提案

これらのうち、④は理論づけで明らかにしておけば、授業の結果として子どもが育っていくものと思っています。しかし、①②③は、授業で目に見えるだけに、会として授業では足並をそろえておきたいと考えます。そこでこれら要件をふまえて、本会の学習指導案のモデルを提案いたします。一般的な指導案の形式をふまえながら本会のテーマに添うと、どんなことが本会の指導案の要件になるかをまとめてみました。

1. 単元 「○・・・・・・・・・・○」

単元・題目・教材・題材など，教科や指導内容にふさわしいものを使う。単元で10時間以上も必要な場合は小単元（3～8時間）を使うほうがよい。

2. 単元設定の理由（趣旨でもよい）

教材の場合は教材選択の理由（趣旨）などのように合わせる。書く内容は、

①児童（生徒）観—この教材（単元）を学ぶ児童（生徒）の実態を書く。こんなことに
関心がある。こんな能力があり判断の傾向はこうだといったことを，学習意欲や態度
にふれて具体的に書く。

②教材観—扱う教材内容についてその価値づけをする。特に，児童（生徒）にどんな内
容を学ばせるどのような意欲や意欲・知識や理解・能力がつくかを書く。

③指導観—この教材を児童（生徒）Ⅱどのように取り組んませて学習させるのか児童
（生徒）の意欲や態度をどうやって育てていくのかを希望的に書く。

○①②が入れ代わってもよい。

④これらの①②③の中に，これまでのハズ学習の取り組みで子どもがどのように育っ
ており，この教材や授業では，どのような場面でどのようなバス手法によって児童（生
徒）を生かし，学ばせていくかを記述する。

3. 目標

①その単元（教材）で学習する内容を基本的な事項に絞り簡潔に書く。理解する，
できる，わかる，といった文末になろう。

②その学習で身につける学習方法・能力（バス学習にもふれる）などによる能力のを書
く。

○計画が数時間以上になる場合は，①が複数になろう。目標はあまり欲張らないこと，
一般的にならないことが大切である。

4. 指導計画 (〇〇時間)

単元 (教材) を何時間でどう進めていくかその予定を示す。数時間以上だと、

第1次 〇〇〜〜 〜〜〜〇〇。・・・ (〇時間)

第2次 〇〇〜〜 〜〜〜〇〇。・・・ (〇時間)

のようにする。計画の時間数が少ないとき (2〜4時間) は、1時間毎の学習内容を書くことよい。

5. 本時の学習 (第〇次・第〇時)・・・本時の位置づけ

1〜4までは全体的なことを書くので、できれば公開する授業については次のような項目で詳しく書くと親切である。

(1) 目標

どんな内容を、どのようにする (方法) とどんなこと (意欲・態度・能力) が身につくかを具体的に書くとよい。

(2) 構想

指導過程でもわかるが、その授業を仕組むにあたっての指導者の考えや工夫、見所を書くことよい。特に、どの学習過程でバズ学習を仕組んでいるが、この中で個にに応じていることや、児童 (生徒) たちがバズを通して学習の仕方に気づく・自分の考えを持つ・他にヒントを貰う・表出 (表現) するなどの個が生きているようすを記述したい。また、教師が授業を進めるための配慮・手立てなどをいれるのもよい。

「個を生かす指導」という言葉に対応する学習指導方法として、問題解決的な学習指導方法がはどうだろう。それは、児童 (生徒) 自らが問題を見つけ解決していこうとする流れの中で、バズ学習の必然性が多くなると考えるからである。

(3) 過程 (学習の流れ、授業過程、指導過程、学習過程など)

児童 (生徒) の 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>ここには -----</p> <p>子どもが学習する内容と学習のしかたを具体的に書く</p>	<p>ここには -----</p> <p>○ 左の事項についてどんなことを、どのようにさせるのか。それはどんな意味を持つのかを書く -----</p>

児童（生徒）の活動	指導上の留意点
<p>A. 児童（生徒）の活動（学習内容、学習展開など）と児童（生徒）の学習する内容と活動を言葉で書く （読点をいれていないのは、生徒の反応に因るためである。）</p> <p>1. 前時の・・・を出し合い、本時の・・・を話し合う ○・・・・</p> <p>2.</p> <p>程の1. 2. 3. 4は問題解決（課 解決）的な発想で授業過程を分けている。 問題解決学習は</p> <p>1. その時間の問題（課題、目標）をつかむ段階 子どもの興味をひきながら、その時間の学習する内容のついてのめどをつける。</p> <p>2. 追求への予想や解決の見通しをつける段階 学習の方法や考えの筋道について予想や見通しを立てる。</p> <p>3. 追求（解決）の段階 資料を見たり、調べたり、作業や実験、話し合いなどあらゆる方法を駆使して追求する。</p> <p>4. 解決（適応、発展）発展させる段階 どんな結論や結果が得られたか、次の時間の方向や家庭学習、課題などがつくられる。</p>	<p>B. 指導上の留意点（指導の要領、教師の留意点など） 指導者がどのように授業をすすめるのか、その意図はなにか、どんな配慮がいるなどを書く。</p> <p>○前時の・・・を・・・することで、本時のめあて・・・をつかませる</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>グループごとに・・・について話し合わせ・・・・で・・・する</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○過程のどこかでバズ学習を仕組む。2か所、10分ぐらいは欲しい</p> <p>○バズ学習の必然性のあるような学習の流れを仕組む</p> </div>

以のような内容があれば、まず指導案としての要件を満たしていると言えるでしょう。指導案は、あまり詳しく書き過ぎても、また少なくとも指導者の意図が伝わりません。授業を参観しながら読み切れるくらいがいいと思っています。

第1学年 学級活動(1) 指導案

平成5年 2月10日(水)

指導者 西村 久美子

(尼崎市立 潮小学校)

1. 題材 1年生のすてきなおもいでではっぴょうかいをしよう

2. 題材について

(1)学級の実態

本学級は、男子17名、女子13名、計30名からなる単学級である。入学時より意図的に、全校生と親しく交わる機会を多く設けてきた。そのため、どの児童もあまり物おじすることなく、元気いっぱいでのびのびと学校生活を送っているように感じられる。

学級の中で、どの子どももよく発表するようにさせるために、学級活動はもちろん朝の会や終わりの会、教科では特に生活科の学習を通して、自分の考えをみんなの前で発表させることを多く取り入れてきた。しかし、子どもたちは、「言いたい」「聞いてほしい」という気持ちの方が強く、聞く態度が十分できていない。特に男子にはその傾向が見られた。その後、班の友だちの話を聞いてから発言させるバズ学習の効果で、学級全体のことを考えた発言や行動が見られるようになってきた。発言ができなかった数人の女の子も、班での話し合いを重ねることによって、全体の場でも少しづつ物が言えるようになってきている。

係活動や集会活動などでは、自分の役割を考え、自主的に取り組む児童がふえてきている。本学級の児童は、全体的に意欲があり活発である。その反面、集中して人の話を聞くこと、深く考えることが苦手であるので、本時は、「おもいでではっぴょうかい」という具体的で行動につながる話し合いをさせたいと考えている。

(2)題材設定の理由

3学期に入り、1年生が終わりに近づいた今、子どもたちは、1年生の思い出とともに、2年生になる喜びと期待に胸をふくらませている頃である。この時期に、生活科単元「もうすぐ2年生」との関連をはかりながら、1年間の楽しい思い出や成長のあとをふり返り、まとめる活動を通して、2年生への準備期間としたい。そして、2年生になるまでの残りの日々を、どのように過ごせばいいのか、児童ひとりひとりに自覚を持たせ、実践活動へと導いてやりたいと考えている。

2学期は、学級目標「みんなでつくろう、たのしいこといっぱいのクラス」をかかげ、活動として“なかよし がんばり どんぐりの木”にどんぐりの実をいっぱいつけようと呼びかけた。そして、どんぐりの実がいっぱいだったので、「どんぐりいっ

「ばいばんざい会」（2学期終わりのお楽しみ会）を実施した。その取り組みでは、班活動に中心をおいて、子どもたちの手で楽しい会にすることができた。それらの経験をもとに、本題材についても、子どもたちは自主的・意欲的に話し合い、実践をしていこうと考えている。

3. 目標

- 1年間の学校生活の中で、自分の成長に気づき、2年生になる喜びと心がまえを持つ。
- 学級のなかまと協力し、助け合っておもいではっぴょうかいを計画し、楽しい会をつくりあげる。

4. 指導計画

(1)生活科との関連

学級活動は、各教科と密接な関係を持ち、教科で培われた力を基礎として活動が活性化される。特に、低学年の生活科は、子どもたちに身近な社会や自然との関わりに関心を持たせ、自分の生活に必要な習慣や技能を身につけさせることをねらいとしているだけに、学級活動との結びつきが深いといえる。そこで生活科との関連を図りながらの指導を重視し、生活科単元「もうすぐ2年生」と学級活動題材「2年生にむかって」の指導を、相互に関連させて計画している。

(2)指導計画

生活科「もうすぐ2年生」	学級活動「2年生にむかって」
第一次「どんなことがあったかなあ」 第二次「できるようになったこと」	○「1年生のすてきなおもいで はっぴょうかいをしよう」（本時） ○集会活動 「1年生のすてきな おもいでではっぴょうかい」
第三次「わたしの本をつくろう」	○「2年生にむかって」 ○「1年生 がんばり ばんざいかいをしよう」
第四次「2年生になる おいわいのかい」	○集会活動 「1年生がんばり ばんざいかい」
第五次「1年生をむかえるじゅんぴ」	

5. 本時の活動

(1)題材 1年生のすてきなおもいでではっぴょうかいをしよう

(2)目標

○一年生で楽しかったこと、できるようになったことの思いでから、何をどんな方法で発表するか、班で話し合う。

○楽しい会にするための工夫や、係の仕事を考える。

(3)本時までの学級会活動の経過

☆2月4日(木) ・ 計画委員会(議長団の役割分担, 話し合いの進め方を確認)

・話し合いの司会・進行は教師が中心となっていくが, 開会, 指名, 閉会など部分的にできるところは, 児童にまかせる。

・議長団は, 男女混合の4人グループで, 輪番である。

☆2月5日(金) ・ 学級全員に, 議題・話し合いの進め方を知らせる。

・学級会ノートに各自の考え方を記させる。

☆2月6日(土)

～

☆2月9日(火)

☆2月10日(水) ・ (本時)

資料づくり, 学級会ノートの点検をする。

(4)役割 司会(教師・児童2名), 記録(黒板・ノート) 児童2名

(5)活動過程

児童の活動	指導上の留意点
<p>1. 学級会を始めましょう</p> <p>①はじめのごとば</p> <p>②学級の歌「1年ちゃちゃちゃ」をうたう</p> <p>③議題を確かめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1年生のすてきなおもいで はっぴょうかいをしよう</p> </div>	<p>○当番に当たっている児童の司会で始める</p> <p>○みんなでつくった「おもちゃのちゃちゃちゃ」の替え歌を歌う。</p>

<p>2. 議題と話し合いの進め方について 先生の話を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の思い出を、班でまとめたものを発表する ○発表のし方、会のくふう、係などをきめることを知らせる <p>3. 議題について話し合いを進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どんなことをするのか、班でできそうなことを考える <ul style="list-style-type: none"> ・げき ・かみしばい ・ペープサート ・楽器のえんそう ○楽しい会にするには、どんなことをしたらよいか話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでできるゲームもする ・学級の歌を歌う ・かざりつけをしよう ○どんな係があればよいか考える <ul style="list-style-type: none"> ・司会 ・あいさつ ・プログラム ・かざりつけ <p>4. 今日の話し合いで決まったことをまとめ、次の会について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録係がまとめる ・司会き終わりのことば 	<p>班</p> <p>全</p> <p>全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生も終わりに近づいた今、1年間の思い出、成長のあしあとの中から、班で発表することをまとめることを知らせる。 ○発表会の出し物、会のくふう、係などがあることを知らせる。 ○みんなができそうなことを出させる。自分たちの班でしたいもの・できそうなものを考えさせる。 ○会を盛り上げるためにしたらよいことを考えさせる。あまりこだわらず、次の係につなぐ。 ○会をするための係について、話し合わせる。だれがどんな係をするかなどは、次の時間に話し合って決める。 ○いつも黒板書記がまとめて発表している。教師が今日の会の進め方について感想を話す。
---	----------------------------	---

第3学年 国語科学習指導案

平成5年 2月10日(水)

指導者 岸本 富士子

(尼崎市立園和北小学校)

1. 題材 「ソメコとオニ」(「新版国語」三年下教育出版)

2. 題材について

斎藤隆介作, 滝平二郎絵と言えば, その歯切れのよい文体と, きりっとした線の切り絵とが見事にマッチして, 私たちを独自の世界へいざなう多くの作品がある。「ペロ出しチョンマ」「八郎」「モチモチの木」などは, 主人公の優しさからほとぼしり出た姿や行動が見られ, 作品を通して「自己犠牲の美」が描かれている。

ところが, この「ソメコとオニ」は, 他の多くの作品とは異なり, 遊び好きの5才のソメコを主人公にした物語で, 底抜けに明るく無邪気な女の子の言動が, 鬼のたくらみを打ち砕くという話である。「遊ぶことは生きること」という子どもの典型ともいえる5才のソメコと, そのソメコに振り回されるオニがくりひろげるこの物語は, 明るくユーモラスな作品である。

この物語に登場するオニは, およそ鬼らしくないオニである。オニにさらわれてしまったソメコを案ずる読み手に, オニは次第に人柄を現してくる。物語の前半で, オニはソメコをさらっておきながら, 結末ではおとうにソメコの引き取りを求めるといってどん返しの構成は, 子どもたちに物語のおもしろさを十分に満喫させるものである。

本学級の子どもたちは, 2学期の「おにたのぼうし」で, おにの子ではあるがおにたのかぎりない優しさと, 人間の持つ鬼への偏見に対するおにたの深い悲しみを学習してきた。「優しい鬼もいる」という認識は, 子どもたちにとってまだ鮮明である。

「ソメコとオニ」に登場するオニは, おにたとは全く異なる性格ではある。子どもたちは, ここでまた新しい鬼に出会うことによって, 意欲的にこの学習に取り組んでいくであろう。この作品では, 始めから終わりまで一貫して変わらない天衣無縫な5才のソメコに振り回されて人柄が変わっていくオニの心情を読み取らせたい。

学級の子どもたちは, 読み聞かせが好きであり, 読書の好きな子どもが多い。書くことについては, 読書の次に好きで, 感想文や書き出しなどはよく書く方である。ところが, 話すこと, 話し合うことには, 苦手意識を持っている子どもが多く, せっかく持っている自分の考えや意見を, 学級全体の中に十分に出していないと感じる。

話す力、話し合う力をつけるためには、まず、ひとりひとりに自分の考えや意見を持たせなければならない。そのために、ひとり学習の段階で、「書き出し」をさせることによって自分の考えを書き明確にさせる。次に、個人の考えを学級全体の中に広げていくのであるが、これがたやすくできない。そこで、話すことに慣れるように、朝の会・終わりの会で「一言スピーチ」をする時間をつくった。また学級会や授業の中に、グループの相談を取り入れて、話すことと話し合う学習を進めてきた。はじめはとまどっていた子どもたちも、今ではほとんどの子どもがグループ相談が好きになっている。その理由としては、ひとりではわかりにくい問題も、友だちといっしょに話し合うとわかってくること、そして何よりもみんなと相談すれば楽しいということである。

「ソメコとオニ」は、ひとりひとりの自由な読みの上に、グループ相談を取り入れながら、作品のおもしろさを十分に味わわせたいと思っている。

3. 目 標

- 登場人物のつながりを考え、相手がどうしてたとき何をしたのか、場面ごとに読み取る。
- 会話文から人物の行為や心情を捉え、その人物の性格を考える。
- 人物の言動について、自分の考えを持つと共に、友だちの考えも取り入れて考えを深める。
- 会話文を中心に情況・心情が表れるように音読する。

4. 指導計画（9時間）

- 第1次 全文を読み学習計画をたてる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
 - 第1時 読み聞かせ、1次感想を書く
 - 第2時 1次感想をもとに学習課題をつくる
 - 第3時 新出漢字と難語句を調べる
- 第2次 場面ごとにくわしく読み取る・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間
 - 第1時 ソメコとまわりの大人たち
 - 第2時 ソメコと知らないおじさん
 - 第3時 オニにさらわれたソメコ
 - 第4時 オニがとどけた手紙（本時）
- 第三次 学習後の感想を持つ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
 - 第1時 感想文を書く
 - 第2時 文章の内容が表されるように音読する

5. 本時の学習（第2次・第4時）

（1）目標

ソメコの遊び相手をさせられて、困り切っているオニからとどいた手紙を読んだおとうの気持ちについて考える。

（2）構想

子どもたちは、1次感想をもとに、課題づくりをしている。この課題を全体的な「めやす」として、各場面ごとに読み深めていく。本時は、この物語の山場であるので、ここでこの物語のおもしろさを読み取らせたい。つまり、岩屋で起きたソメコとオニの立場の逆転と、手紙の「金のたわら1俵」の意味の逆転に気づかせたい。そして、ここに出てくるオニの人柄の変化を、読み取らせたい。

学習過程の3、手紙を読んだおとうの気持ちについて考えるところに、グループ相談を入れている。ひとりひとりが自分の考えを持った上で、グループで話し合う。それを、全体の中に拡げていくことで、各自の考えを深めさせるのである。

この学習で、またひとつ悪者になり切れないオニに出会うことによって、子どもたちの持つ「おに像」がますます広がり、これがまた次の読書へのステップとなることを期待している。

（3）学習過程

児 童 の 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. 本時のめあてを話し合い、学習場面 4 を読む ○前時の学習を想起し、本時のめあてをたしかめる ・オニがおとうに手紙を書く ・オニが困っている	○3の場面を中心に、となりと話し合ったことをもとに、みんなで確かめる。
オニからとどいた手紙を読んだおとうの気持ちを考える。	
○本時の場面 4 を読む	○場面の様子を思い浮かべながら、読ませる。（一斉読み）

<p>2. オニの手紙の、おもしろいところを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早くつれに来てくれ ・助けてくれ ・夜もねられないので頭がおかしくなりそうだ ・この手紙も、ソメコとかくれんぼしなから書いている ・ソメコをつれて帰ってくれたら金のたわら一ぴょう、馬につんでやる 	全	<p>○ますますはりきって、オニを相手に、夜も昼も遊びをせがむソメコと、困り切っているオニの様子から、ソメコとオニの立場がすっかり逆転していることに気づかせる。</p> <p>○おもしろさがとらえにくいときは、さらわれたソメコと、さらったオニのどちらが困っているかをたずね、逆転をおさえる。</p> <p>○ソメコのおとうへの要求だった「金のたわら1ぴょう」が逆転でけいることに気づかせる。</p>
<p>3. 手紙を読んだ、おとうの気持ちについて考える</p> <p>○グループで話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソメコは無事だ。よかった ・ソメコにしつこく遊びをせがまれ、オニがかわいそう <p>○グループの話を出し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソメコの言いなりになって、人のいいオニだな ・金のたわら一ぴょう、オニからもらうとは、ソメコもたいしたものだ 	ゲ 全	<p>○おとうになったつもりで考えさせる。本文の「ソメコがいなくなって大さわぎしているときの家のようす」とつないで考えさせる。</p> <p>○手紙を見て、おとうが思った言葉は書いていないので、ひとりひとりの感じや思いを尊重しながら、自由に話し合わせたい。</p>
<p>4. おとうの気持ちについて、自分の考えを書きまとめる</p>	個	<p>○人の考えも取り入れさせながら、自分の考えを、ワークシートに書きまとめさせる。</p>

第5学年 社会科学学習指導案

平成5年 2月10日(水)

指導者 小野宗一

(尼崎市立上坂部小学校)

1 小単元 「住みよい環境を考える」(大単元「見なおそうわたしたちの国土」)

2 単元設定の理由

子どもたちは、これまでの食料生産・工業生産などの学習で、生産にともなう開発と自然破壊についてふれている。国土のようすの学習をする中で、公害問題については、自分たちの身近に存在しており、子どもたちの関心事にしてきた。

本単元は、国土の自然をどのように守り育てていったらよいか、を考えさせることをねらいとしている。国土の自然のようすを知り、自然が国民の生活にとってどのような役割を果たしているかをとらえていく。これまで学習した産業で働く人々では、農林水産業で働く人々の割合が低下してきていることを知った。このことが、それらの産業では、資源の利用の仕方や働く人の減少など、困難な問題を多くかかえている。しかし、人間の生活にとって、農林水産業は、衣食住を提供する重要な役割がある。子どもたちにこれらの産業の基盤である資源としての自然をこの単元では見直させていきたい。

本単元は、「環境の保全と資源の重要性について」の関心を深めることにある。森林は私たちの生活環境をよくするうえで、きわめて重要である。森林の機能は、木材の生産だけでなく、国土の保全、水資源の涵養、レクリエーションの場にもなるなどをあげることができる。公園の樹木に限らず、子どもたちの目にふれる森林の育成には、林業に携わる人々の仕事の努力だけでなく、多くの国民の関心があり、協力がある。そうした森林のはたらきを総合的に理解させ、森林を通して国土の環境を見直させることが大切である。

子どもたちの学習への参加や個々の発言力をつけるために、学級では小集団(男女6人)を編成し、話し合い活動を基本にした学習をすすめている。バズ学習を通して自分の考えを出し合い、集団のなかで深めていくことを期待している。まだまだ話し合いの基本訓練をしながらの取り組みではあるが、お互いに助け合い、学級全体の学習の参加ができるようになってきた。また、自分の意見がみんなに認められることから、学習の意欲も高められ、意見を出そうとする努力がみられるようになってきている。

3 目標

- (1) 現在さまざまな環境破壊の問題が起きており、自然の環境を守ることは重要な問題であることに気づく。
- (2) 森林資源は、木材生産だけでなく、国土保全や水源涵養、さらにレクリエーションなど国民生活に重要な役割を果たしていることを理解する。
- (3) 国土の環境を守るには、森林の健全な育成や保護が大切であることに気づく。

4 指導計画（7時間）

第1次 国土の自然を守る	4時間
第1時 森林を育てる人々の工夫や努力	
第2時 森林の役割とくらし（本時）	
第3時 水資源の利用とくらし	
第4時 自然とくらしのかかわり	
第2次 地球の環境を考える	2時間
第3次 かけがえのない地球	1時間

5 本時の学習（第1次 第2時）

(1) 目標

わが国は、森林に恵まれており、森林は、木材資源としてだけでなく、国土の保全や国民生活にとっても環境自然として重要であることに気づく。

(2) 構 想

- 前時は、子どもたちは、秋田すぎを育てる人々の工夫や努力を通して、木材資源としての森林と、むかしから人々が森林を大切に育ててきたことを学んだ。

本時は、森林を木材資源としてだけでなく、森林が大切な保安・防災といった国土の保全と、人々の保養・健康に役立っている資源としての見方を広げる学習である。

- 子どもたちは、国土の利用の資料を見て、その資料から森林が多いことを読みとり、前時の森林を育てる人々の仕事と、大切に守られたこととつなぐであろう。

そこで、わが国の木材消費のグラフを見せる。子どもたちに輸入材が増えているのに、国産材が減っていることを読みとり、なぜ国産材を増やせないのか、疑問に思うであろう。このことをグループで話し合わせることにより、森林が木材生産以外に役立っていることを見つけていくものと思う。また、絵などを手がかりにして森林のはたらきについてまとめさせ、資源として森林の見方を広げさせていきたい。

(3) 学習過程

児 童 の 活 動		指 導 上 の 留 意 点
<p>1. わが国の土地利用のグラフを見て、話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林が多い <li style="padding-left: 2em;">山地が多い <li style="padding-left: 2em;">木材の生産に ・農地が少ない ・住宅地が少ない 	全	<p>○前時の秋田すぎを育てる人々の苦勞にふれ、土地利用のグラフを提示する。</p> <p style="padding-left: 2em;">土地の利用にふれ、なかでも比重の大きい森林に焦点をしぼり、森林の生産について出させる。</p>
<p>2. わが国の木材生産と輸入の割合の資料を見て、話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材はふえている ・輸入材がふえている ・国産材がへっている ・国産材をふやせないのか <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>国内の森林は、木材の生産のためだけであろうか。</p> </div>	全	<p>○木材の生産に着目させ、わが国の木材消費の資料を見せる。</p> <p style="padding-left: 2em;">子どもたちは、わが国は、森林が多いにもかかわらず輸入材が多いことに気づき、なぜ国産材が増やせないのか、疑問に思うだろう。</p> <p>○国内の森林を切って国産材を増やせないかたずね、森林が木材生産のためだけではないことにつなぐ。輸入先の国々については深入りせず、次単元の地球の環境で扱う。</p>
<p>3. わが国の森林は、木材生産のほかにも、いろいろ役立っていることを考える</p>	グ	<p>○グループで、国産材を増やせないわけを話し合わせ、わが国の森林は、木材生産のほかにも大切なはたらきがあることをみつけさせる。</p>

児 童 の 活 動		指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> ・木材の生産 ・紙を作る ・空気をきれいにする ・水をたくわえる ・土砂くずれを防ぐ ・こう水、災害を防ぐ ・動物のすみかに ・健康のために ・騒音を防ぐ 		<p>○グループで考えたことを、カードに書かせ黒板に貼らせて発表させる。あとの森林の働きをまとめやすくするためである。</p>
<p>○根と土壌を示した絵を見て、自分たちがみつけた木森林のはたらきを確かめる</p>	全	<p>○木の絵を見て、子どもたちが考えた森林のはたらきを確かめさせ、新たに気づいたものがあれば出させる。</p>
<p>4. 森林のはたらきについて、話し合い、まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材生産 ・健康、保養 ・国土の保全（災害を防ぐ） <p>○ 人々にとって大切</p>	全	<p>○ 森林のはたらきについて、考えたものをまとめさせ、森林が自分たちの暮らしと環境に大きく役立っていることに気づかせ、次時の水資源につなぐ。</p>

平成5年 2月10日(水)

指導者 坂部 由里子

(尼崎市立大島小学校)

1. 題材 「きつねの窓」(「新版国語」六年下・教育出版)

2. 題材設定の理由

物語、「きつねの窓」は、幻想物語である。この作品の魅力は、何と言っても文章表現の美しさであろう。色彩のメルヘンとも言える、青い色を主調とした幻想的なイメージの美しさ、倒置法を多く用いた個性的な文体、比喩を使った巧みな情景描写、「・・・のです。」「・・・のでした。」のような語りの文体など、言語感覚にかかわる部分が随所に見られる優れた作品である。このような作品は、イメージ豊かに読ませることができ、美しい日本語を味読させるのに好適な題材であると思う。

内容的には、孤独な語り手「ぼく」が、同じく独りぼっちの子ぎつねとの触れ合いの中で変容していく姿が描かれている。子ぎつねが、ききょうの花のしるで、青く染めてくれた指で作った窓は、「ぼく」の懐かしい過去のひとときをかい間見せてくれる。しかし、小屋に帰り、いつもの習慣でつい手を洗ったことで、夢へのかけ橋を失ってしまう。

子どもたちは、語り手「ぼく」と子ぎつねとの触れ合いに心を温めたり、不思議な窓へのあこがれに胸をふくらませたりする。そして、最後に現れる夢と現実の悲しい断絶に、胸をつまらせながら読みひたることであろう。私たちが失ってはならない、人間の優しさを求めて生き続けようとする語り手「ぼく」の姿を、子どもたちに、共感をもって読みとらせたい。

本学級の子どもたちは、物語教材では、場面の情景や人物の心情を読み深めていくのに興味をもっている。しかし、みんなの前で自分の思いを発表するのは苦手な子が多く、発表者も限られる。そこで、授業ではバズ学習を活用して、少人数の中で自分の思いを発表する場面や、友だちの意見もよく聞かせる場면을重視してきた。このことにより、お互いに認め合い、高めていこうとする態度や意欲が感じられるようになってきている。

3. 目標

○子ぎつねとの交流の中で、移り変わっていく「ぼく」の心の変化を読みとり、自分なりの感想をもつことができる。

○ファンタジックな作品のよさに気づき、進んでイメージ豊かな文芸作品を読もうとする意欲をもつ。

4. 指導計画（全12時間）

- 第1次 あらすじをつかみ，学習計画をたてる。・・・・・・・・・・3時間
- 第1時 範読を聞き，初発の感想を書く。
 - 第2時 新出漢字・難語句を調べる。
 - 第3時 通読し，学習課題をつくる。
- 第2次 学習課題にしたがって，ぼくと子ぎつねの気持ちを読みとる・・・・・・・・7時間
- 第1時 いつもの山で道に迷ったときのぼくの気持ち
 - 第2時 白ぎつねを追うぼくの気持ち
 - 第3時 だまされたふりをしているぼくの気持ち
 - 第4時 「指を染めよう」と言った子ぎつねと，
「そんな窓がほしいなあ」と言ったぼくの気持ち
 - 第5時 鉄ぼうをほしがった子ぎつねと，
鉄ぼうをやったときのぼくの気持ち（本時）
 - 第6時 ききょう色のすてきな指をもったぼくの気持ち
 - 第7時 いつもの習慣で，うっかり手を洗ってしまったぼくの気持ち
- 第3次 学習のまとめと感想文を書く・・・・・・・・・・2時間
- 表現読みをし，まとめの感想文を書く

5. 本時の学習（第2次・第5時）

（1）目標

鉄ぼうをほしがる子ぎつねに，「ようし，やろう。」と気前よく鉄ぼうをやったぼくの気持ちを読みとる。

（2）構想

前時，子どもたちは，「ぼくも，そんな窓がほしいなあ。」と，子どものような声をあげた主人公と，「ぼく」の指を染めてあげたい気持ちになっている子ぎつねとの関係を読みとっている。

本時は，きつねが，主人公のぼくの指を，染めるところから始まる。内容は，

- ①きつねがぼくの指を染めること，
- ②染めてもらった指でぼくは窓をつくって見ること，
- ③きつねがぼくに「鉄ぼう」を求める，という内容を扱う。

子どもたちは，きつねの染め方がいねいなこと，染めてもらった指でつくった窓ですばらしい過去との出会いをしたことなど，内容的にとらえやすいと思われる。しかし，お礼に「鉄ぼう」を求められて驚く主人公が，気前よくやろうという気持ちになることについて，子どもたちは，すばらしい指の窓に比べると鉄ぼうの値打ちは少ない，と考えるものと思われる。

ここで、「なぜきつねが鉄ぼうが欲しいと言ったのか」その背景を考えさせる。そのことで、鉄ぼうに対するきつねの気持ちがわかって、自分の大切な鉄ぼうを気前よくやろうと決心するぼくの気持ちを、一段と深いところで読みとるのではなかろうか。登場人物の心の動き、気持ちの変化をグループで話し合わせることにより、心の中の広がりをさまざまな角度で考えさせ・気づかせたいと考えている。

(3) 学習過程

児 童 の 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1. 学習場面を読み、本時のめあてを話し合う ○学習場面を読む</p> <p>○本時のめあてを話し合う</p>	<p>○前時の終末を話し合わせる。ぼくがほしいと思った窓はどうなるかという意識で、指名読みをさせる。</p>
<p>「鉄ぼう？そりゃちょっと・・・。」→「ようし、やろう。」 気前よく、鉄ぼうをきつねにやったぼくの気持ちの変化を読みとる。</p>	
<p>2. 場面の变化にともなうぼくの行動と、心の動き・気持ちを考える ○染めているきつねのようす ・たっぷりと青い水 ・ゆっくり、ていねいに</p> <p>○染めてもらった指を、おそるおそるのぞくぼくの気持ちを話し合う ・胸をときめかせて ・おそるおとる ・「やあ、あの子じゃないか！」おどり上がりました。 ・「やあ、すてきなことだね。」</p>	<p>個 ○誠実なきつねのようすを、文脈にそっておさえる。</p> <p>グ ○期待と不安の入り交じったようすを読みとらせる。</p>

児童の活動		指導上の留意点
<p>○指でつくった窓をのぞいたぼくの気持ちを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お礼をはらおうと思って、ポケットをまさぐる ・「品物なら、なんでもやるよ。」 	個	<p>○「ああすてきなことだね。」と言ってお礼をしようとおもったぼくの心の変化をたどらせたい。</p>
<p>3. きつねが、お礼に鉄ぼうをほしが るわけと、気持ちよくやったぼくの 気持ちを読みとる</p> <p>○きつねが、お礼に鉄ぼうをほしが るわけを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親が撃たれた ・自分にとっても危険だ 	グ	<p>○「品物なら、なんでもやるよ。」 と言ったぼくの言葉に 「そんなら、鉄ぼうをください。」 と即答したきつねの気持ちを考えさせ る。</p>
<p>○気前よく鉄ぼうをやるわけを考え ワークシートに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄ぼうより指のほうがすばらし い ・かけがえのないなつかしい場面 が見られる 	個 全	<p>○「鉄ぼう？それちょっと・・・。」 の「？」を・・・の中味について考え させる。</p> <p>○鉄砲は、猟師のぼくにとって大切な生 活手段の一つであることをおさえない。</p> <p>○たった今、手に入れた「すてきな窓」 の中味を考えさせたい。</p> <p>○「ようしやろう。」迷いの気持ちがふ っきた決心の言葉であることをおえ る。</p>
<p>4. すてきな指をもらったぼくのその 後にふれ、次時へつなぐ</p>		<p>○次時は、現実とファンタジーの世界の 接点を失うことになるぼくの気持ちを 予測させる。</p>

第2学年 社会科学学習指導案

平成5年2月10日水曜日

2校時 2年1組

指導者 大西宏道

(尼崎市立大庄東中学校)

1 単元 「近代国家へのあゆみ」

2 単元設定の理由

生徒たちは21世紀の日本を担うという重大な使命を与えられている。1年生の地理の学習において、現在の国内産業の状況、世界の各地域とのつながり、わが国の国際的地位などを学んできた。2年生の歴史の学習では、私たちの祖先が、どのようにして今日の日本を作り上げてきたか、また、世界の歴史の流れの中で日本のリーダーたちはどのような舵取をしてきたかなどを学んでいる。

現在、世界の中で日本が果たすべき役割は、重要なものとなっている。江戸時代の長い鎖国から解き放たれ、世界の荒波へ漕ぎ出していった当時の日本の動きを学ぶことによって、その重要性を見直すことは大切なことである。また、そのことが、生徒たちの将来にも関係してくることを理解させる必要がある。

社会の学習は、どうしても知識中心の勉強と思われがちで、このため、授業の形態も、教師から生徒への一方通行的な指導に陥りやすい。

社会科には本来

- (1) 種々の要素をパズルのように組み合わせしていく。
- (2) 与えられた状況から探偵小説のように推理する。
- (3) いつも「なぜ？」という疑問を持つ。

というような思考力や想像力の豊かさが、必要なのである。

上記のような内容のあるものにするためには、生徒が能動的な活動をする場面がある。

1年生の地理の学習では、5～6つの班を編成し、各々の班で世界の各地域の特色をまとめさせ、模造紙に書かせて発表させる方法をとった。各自が調べた資料をまとめる作業を通して、生徒たちは意欲的に学習に取り組む姿勢を見せた。しかし、反面、作業に時間を費やし、学習進度が多少遅れるという欠点もあった。

2年生の歴史では、歴史を川のように変化し、発展して流れているものにとらえている。その流れをしっかりとつかむことが学習のポイントとなってくる。しかし、地理のよ

うな作業は、取り入れにくい面があるので、2年生では、人物や事件に焦点を当て、班の中で資料をもとに話し合い、歴史的テーマをつかませる作業を行っている。その中に、自分なりの時代観をつくる力を身につけさせたいと考えている。

3 目標

- (1) 開国前後の倒幕運動の高まりから、明治政府の成立までの指導者、民衆の動きを理解する。
- (2) 幕府が、外圧によって開国する過程を欧米列強のねらいをからめて理解する。
- (3) 明治新政府の方針を、各政策やそれに対する民衆の動きから理解する。
- (4) 大日本帝国憲法制定の動きを、自由民権運動や政府の対応などと関連させて理解する。

4 指導計画 (11時間)

第1次 江戸幕府倒れる (3時間)

第1時 開国と不平等条約 (本時)

第2時 開国の影響と尊王攘夷運動

第3時 世直しと幕府の崩壊

第2次 明治維新 (5時間)

第3次 国会開設へのあゆみ (3時間)

5 本時の学習 (第1次 第1時)

(1) 目標

黒船来航に対する江戸幕府の対応、また、開国へ追い込まれていった状況を理解する。

(2) 構想

開国をめぐるアメリカの思惑、江戸幕府の対応を中心に開国の困難さを考察させる。アメリカ大統領の国書を資料として、なぜ開国することが幕府や当時の社会に大問題であったのか、班単位で考えさせる。その際、教科書の内容にこだわらず、できるだけ生徒の自由な発想を引き出すように留意する。以上の観点から長い平和の眠りから揺り起こされた当時の日本国内の動揺ぶりをつかませたい。

(3) 学習過程

学習活動 (生徒の活動)	形態	指導上の留意点
<div data-bbox="477 526 880 719" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"><p>黒船の来航の目的は、何だろうか、また、幕府はこれに対してどのように対応したのか。</p></div> <p>1. 日本をとりまく強国のようすを思い出し、上記の本時のテーマをつかみ、教科書を読む</p> <p>2. 資料集にのっているアメリカ大統領の親書を読ませて、アメリカの目的は、何か考えさせる</p> <ul style="list-style-type: none">・友好や通商が主なねらい・石炭や食料の供給を求めて・難破民の保護を求めて・要求が通った先には日本の植民地化が待っている	<p>斉</p> <p>班</p>	<p>○左記のテーマを大きく板書し、最初に印象づけさせておく。</p> <p>○アヘン戦争を思い出させ、日本をとりまく世界情勢についておさえておく。</p> <p>○各班に発表させて、ポイントを整理してつかませる。掛け地図などを使って場所や時間的なものをはっきり理解させる。</p>

<p>3. アメリカの要求に対して、幕府がどのような対応をしたかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うろたえる ・幕府だけで対応できず、大名から庶民にいたるまで意見を求める 	<p>班</p>	<p>○各班で自分たちが、幕府ならばどのように対応するかを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎖国を守るためには。 ・鎖国を守ることにこだわらない場合はいろいろな内容の意見が出るように留意する。
<p>4. 幕府の最終的な決断はどうしたのか説明する</p> <p>○これに対する武士、庶民の対応を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日米和親条約 ・日米修好通商条約 ・尊王攘夷論 ・安政の大獄 <p>○次の時間への課題</p>	<p>斉</p>	<p>○歴史的事実を簡単に説明し、開国がどのような変化を国内にもたらしたかを考えることが次回のテーマであることを予告する。</p>

第2学年 道徳学習指導案

平成5年2月10日水曜日

2校時 2年2組

指導者 大龍 雅子

(尼崎市立大庄東中学校)

1. 主題 「思春期の心」

2. 主題設定の理由

近年、多くの間違っただけに関する情報が氾濫しているなかで、体の著しい変化と心のバランスがうまくとれず、戸惑い、悩んでいる生徒に出会うことが多い。このような背景から、本校では「思春期教育」として、人間の生き方や心のあり方に重点をおく性教育を、道徳や保健体育・理科など各教科で多方面から進めている。

1年生では「男女の体と心の違い」、「男女の協力」などについて学習しており、男女の発達の違い、精神面の違いなどを知り、互いに協力することの必要性や楽しさなどを実感する場を設けてきた。

中学2年という年齢は、自我に目覚め、体に現われてくる大人への変化を少しずつ意識し始める時期であり、生徒は感情面や行動面で不安定になりやすい。このような生徒たちに、思春期の心と体を正しく見つめさせることにより、この時期をスムーズに過ごせる正しい認識をもたせたい。

昨年度より、生活班を中心にいろいろな活動は行っていたが、バズを意識して取り入れた学習は、本年度の2学期より始めたばかりである。バズ学習を道徳や学級活動・教科の学習に取り入れることにより、学級内での人間関係が深まり、互いに認められているという気持ちから、一人ひとりが意欲を持った学校生活を送れるようになってきている。また、バズ学習を取り入れたことで、男女の協力や思いやりの心が育っているようである。バズ学習を行なうことが、思春期教育につながっていると考える。

学級の生徒は、全員が課外クラブに所属している。現在、生徒たちは勉強とクラブ活動に打ち込み、明るく健康的な学校生活を送っている。このように忙しい毎日を送っている生徒たちではあるが、ふと立ち止まって自分を見つめたときに戸惑うことのないよう、これからぶつかるかも知れない課題を、自分で解決できる力をつけさせたい。

3. 目標

- ・自我の目覚めと、変化している心の動きを見つめる。
- ・中学生の時期は性や異性への関心が高まることを知る。
- ・感情的な動揺をコントロールしながら生活することの大切さを考える。

4. 指導計画（8時間）

第1時 自分の心を見つめ、心の中にある異性への関心について話し合う。

第2時 心の中が変わってきたのはなぜかを考え、男女の心の動きについて話し合う。
(本時)

第3時 心の動揺をコントロールし、自分らしくより良く生きることについて考える。

5. 本時の学習

(1) 目標

理性と欲望の葛藤を取り上げた場面について、男女の心の動きをグループで話し合わせることにより、人間の心の中に対立する理性と欲望という気持ちがあることを気づかせる。

(2) 構想

生徒たちは、前時に異性への興味について資料を読んで考え、男女の性に対する考え方や行動面での違いに気づいた。本時は資料について、第三者として考えるのではなく、さらに発展させて深く考えさせる。ここでは、理性と欲望の葛藤を取り上げた場面設定をして、男女の心の動きやそれを取り巻く人たちの気持ちについて小集団で話し合いをさせ、話し合った内容を発表させる。生徒たちにとっては、現実にはあり得ないことだが、真剣に設定場面をとらえることができるように「もし同級生が妊娠したら」という想定のもとで話し合いをさせる。設定された場面に登場する人物になったつもりで、気持ちを考えながら進めさせる。

グループで話し合うことで他人の考えを知り、さらに自分の思いと合わせて考えをまとめ、グループの話し合いで各自の考えを作りあげた時点で全体で話し合わせる。他の班の発表を聞くことで、自分でも気づかなかった心の動きを見つけることができると考えている。

(3) 学習過程

学習活動（生徒の活動）	形態	指導上の留意点
<p>1. 前時に考えた「ある日のできごと」についての感想を発表する</p> <ul style="list-style-type: none">・人物は好きだが行動は嫌い・相手の気持ちを考えて行動してほしい <p style="text-align: center;">など</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>心の中がなぜ変わってきたのだろう</p></div> <p>2. 脳の中（心の中）のしくみについて説明を聞き、設定された場面について考える</p> <p>○脳の中のしくみの説明を聞く</p> <ul style="list-style-type: none">・たくましく生きていくための本能の働きと、よりよく生きようとする前頭葉の働き（理性）が中学時代にめざましく発達する	<p>斉</p> <p>斉</p>	<p>○前時に各班毎にまとめさせた内容を発表させ、本時の課題につなぐ。</p> <ul style="list-style-type: none">・体の変化だけでなく、心の中も変わってきていることを明らかにさせる。 <p>○自分の心の中にある異性への関心や男女の性に対する考え方の違いに気づかせ、戸惑っている生徒にさらに深く考えさせたい。</p> <p>○心の中が変わってきたのは、脳の成長の過程であることを確認しておく</p> <ul style="list-style-type: none">・理性と本能という対立する気持ちは、心の中にあるから葛藤が生まれることを理解させる。・理性と本能は、中学生時代に著しく発達することをわからせる。

<p>○もしも、同級生が妊娠したらという設定場面について、登場人物の誰になるかを決め、場面の展開を話し合う</p>	<p>班</p>	<p>○話し合いや発表を通して自分の考えをまとめ、自分でも気づかなかった心の動きを見つけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面設定は理性と本能の葛藤を取り扱ったものにする。 ・登場人物になりきって、その心の動きを深く考えさせる。
<p>3. 班で考えた場面の展開について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女の子は相手の男の子に相談するが自分たちではどうしてよいかわからない ・友だちに相談する ・親に相談する ・先生に相談する <p style="text-align: right;">など</p>	<p>班 (齊)</p>	<p>○他の班の発表を聞いて、自分たちの班の話し合いでは気づかなかった心の動きを見つけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の時は言葉だけでなく、できるだけ体全体で表現させるように留意する。 ・聞いている生徒は傍観者として聞くのではなく、その場面にいるつもりで聞かせる。
<p>4. 話し合いや発表を通して、気づいたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生に子どもができても養っていけない ・友だちに相談しても解決できない。そういう場合は親に相談しようと思う ・責任も取れないような人が大人の真似をしてはいけない <p style="text-align: right;">など</p>	<p>個</p>	<p>○班での話し合いや発表の場で考えてきたことを振り返らせることにより自分自身の気持ちを整理させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を思いやり、自分の行動に責任が持てるような子どもに育てられたらと思う。 ・簡単にまとめさせ、次時につなぐ

バズ学習を生かすためには

尼崎市立武庫南小学校 細川 洋子

1. 育てたい子ども像

協力し合うことにより、友達のよいところを見つけられ、互いに高め合うことのできる子どもをめざして、バズ学習に取り組んでいる。

2. バズ学習との関わり

「バズ学習」の指導をやっているという意識はなかったが、ずいぶん前から小集団による指導（特に仲間作りをめざして）に取り組んでいた。集団が高まれば個が高まる、しかし、一人で自分を高めるのはむずかしい、大きな集団の中では個が埋没してなおさらむずかしい。それで、小集団（班）を編成して小集団の中なら、個が出し合え、互いに協力し合って個を高め合っているのではないかと考えて指導してきた。はからずも、それが 3年前から尼崎で「個を生かす指導法研究会」で研究している「バズ学習」のねらいと同じであったので、勉強させてもらうこととなった。

3. 指導の実際

○グループ編成について

- ・1年生では2人バズから始める。慣れてきたら4人バズの方が広がりがある。
- ・グループ内は異質、グループ間は等質がよい。
- ・時期 ① 一ヶ月に1回 ② 二ヶ月に1回 ③ 1学期間に2回 ④ 日番がひとまわりしてから編成する、などの方法がある。
- ・方法 ① くじびきで決める。
 - ② 教師が意図をもって編成する。
 - ③ 2人グループを子どもどうしてつくり、教師がそれらの2つを等質になるように組む。

※他のグループのよさを認め合うグループ作りが大事である。

○話し合いの進め方

- ・お客さんを作らないように一人一人に発言させ、活動させる。
- ・一人一人を鍛えるために役割を分担させる。（全員リーダー制）
- ・無理にグループの意見をまとめる必要はない。

○バズを使う時

- ・課題がはっきりしているとき
- ・いろいろな考えが出せるとき

- ・ドリル学習をしあうとき
 - ・協力して作業するとき
- 具体的な学習場面の中で
- ・国語—課題作り、深め読み、小見出し作りなどする時
 - ・算数—九九の練習で互いに聞き合い、合格印をカードにつける時
 - どうやれば問題や計算が早くやれるか、いろいろな方法を考え合う時
 - ・生活—町探検 グループごとに課題を決めて町探検し、まとめる時
 - 秋祭り 店を出すために、材料や方法などを考え合い、協力して作業をすすめる時
 - ・音楽—楽器の練習で互いに聞き合い教え合う時
 - 「むしのこえ」で打楽器をどのように使えばよいか考え、話し合って練習する時
 - ・体育—基本の運動では、グループごとに練習して、よいところを見つけ合ったり教え合ったりする時
 - なわとびでは組み合わせて自分たちだけのとびかたを考え合う時
 - ゲームでは、作戦を考え合う時
 - ・学級活動—学級行事でグループの出し物（歌、ペープサート、合奏、クイズ等）を考え合い練習し、発表する時

4. 反省と今後の課題

- ①グループ内で聞いてもらっているので、みんなの前でも自信をもって発表するようになった。
- ②同じグループになると、その友達のよさがわかるためか、帰宅後もいっしょに遊ぶようになったり、次もいっしょのグループになりたいという声をよく聞く。
- ③自分の作業が終わった時、「次は何をするの」と言っていたのが、友達の方に目がいき、手伝ったり、見まもったりすることができるようになった。
- ④全員リーダー制で自覚を促すようにしているが、できる友達に安易に頼ったり、リーダーに任せてしまう児童もいる。
- ⑤リーダー的な児童がいないグループでは、話し合いや作業などで、ふざけたり、遊びになってしまったりで、困った。グループ編成の大切さがわかった。

☆個を引き出し、「育て→高め→広げる」バズ学習

尼崎市園和北小学校 市来初義

1. 育てたい子ども像

本学級の児童は4月当初、自分の考えがしっかり持てず、一斉授業の中で挙手する児童が少ない現状であった。そこで、何とかしなければと悩んでいた時、出会ったのがバズ学習である。

バズ学習の手法を取り入れることにより、一人ひとりのよさを引き出し、主体的に課題を見つけ、自分の考えを出し合い、集団のなかで深め、お互いに高め合い、広げることのできる子どもをめざしてバズ学習に取り組んでいる。

2. 一人ひとりを生かすバズ学習

教師主導の一斉授業形態から児童中心の授業形態への改造、つまり、バズ学習を取り入れることにより、次のような期待をしている。

- (1) 一人ひとりの子どもを学習に参加させることができるのではないか。
- (2) 子ども間の相互作用を生み出すことができるのではないか。
- (3) バズ学習を生かすことにより学習を能率化することができるのではないか。
- (4) 学級集団の質を高めることができるのではないか。

3. 指導の実際

◇グループ編成とバズ活動

- ・当初6人グループで出発したがクラスの実態からから4人グループ（男子2人、女子2人）へ編成がえする。 §別紙資料2
- ・グループ編成にあたっては希望調査を実施し、児童の長所（よさ）が生かせるグループ（例、得意な教科、好きな教科、したい係、忘れ物、スポーツ、信頼度等）にする。
- ・全員班長、全員リーダー制とし、一人ひとりを鍛え、伸ばすために役割分担をさせる。
- ・班長、各リーダーのリーダーシップのもとにバズ学習をすすめている。
- ・他のグループとの横のつながりを大切にするための班長会議を実施する。
- ・毎時間「のびゆく33」の記録を授業終了時の3分前に書かせることにより本時の反省及び次時とのジョイントに役立てる。 §別紙資料1
- ・教科、掃除、給食、遠足、自然学校、体育のチーム等、生活丸ごとのなかで活動させ、お互いの人間関係を深めている。
- ・バズコーナーをつくり、プリントや参考書、ドリル問題、マジック等が自由につかえるように工夫している。 §別紙資料3

4. バズ学習を生かす授業

《課題 → バズ学習 → 一斉学習 → 確認学習 → ジョイント学習》

◇例、算数科「文章題」

1. 課題については児童が興味・関心を持ち、「アッ」と心を引きつける問題を提示する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《一斉》
2. 課題解決に当たっては、まず一人ひとりが自分の力で具体物や半具体物を使い、操作活動を通す中で解決方法を見つける。・・・・・・・・《個人》
3. 一人ひとりの考えをバズ学習で練り上げ、班としての解決方法を持たせる。
☆・・・・・・・・《バズ学習》
4. 班としての考え方を全体へ発表し、話し合い、よりよい解決方法を見つける。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《全体》
5. 自分の考え方と全体の考え方を比較し、自分なりの解決方法をまとめる。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《個人》
6. 考え方があいまいな所、もっと勉強してみたいこと等を整理し、課題意識（意欲・関心）を持たせる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《バズ学習》

5. バズ学習による成果（反省）

- ・発言の回数が増え、学習への自信と目の輝きが見えてきている。
- ・他のグループの意見にも興味、関心がでて、学習への取り組みが意欲的になってきている。
- ・資料集めに班合同で図書館、地区会館、本屋等へ行っている。
- ・聞く力、書く力、話す力が身につくようになった。
- ・整理整頓についての意識が高まり、忘れ物が減ってきている。
- ・一人ひとりの所属感が育ち、掃除がじょうずになってきている。
- ・自然学校でリーダーを中心に協力し、集合が早くできた。
- ・班で協力した結果、運動会のリレー大会、全校相撲大会、ドッジボール大会で優勝した。

6. 今後の課題

- ・バズ学習が生かせる教材の精選が必要である。
- ・バズ学習における学習訓練の在り方をどうするか。
- ・バズ学習における評価をどうすすめるか。
- ・教室環境づくりとバズコーナーの工夫をどのようにするか。
- ・バズ学習における教師の位置はどうあるべきか。
- ・バズ学習と一斉学習とのかかわりをどうするか。

★自己点検カード NO [] 努力に勝る天才なし

○できた ×できなかった 5かん()

副1 のび

年(火)曜日

月	曜日	読書	英語	算数	理科	社会	音楽	美術	体育	その他	反省	親印	名前
/	月										○		
/	火										○		
/	水										○		
/	木										○		
/	金										○		
/	土										○		
/	日										○		

生活のリズムをつくらう。

振り返りグループかんばん表 ()班

☆今週のめあて

月・日	月	火	水	木	金	土
忘れ物						
発表						
協力						
年間目標						
月目標						
連絡帳						
私のがんばり						
班合計						

相談コーナー NO ()
平成()年()月()日

1. 自分自身について
・先生あかね

2. 友達について
・先生あかね

3. 家庭(親、兄弟、家族)について
・先生あかね

4. その他
・先生あかね

朝	しっかり話	
体育	なわとびで後3とびかした。あやとび教えた。	三重とびできた。あやとび教えた。
国語	静かに読書ができた。	グループ感想をした。
国語	元日の朝を書いた。のびむすめむすめした。	元日のしむすめした。
社会	社会科のリーダーの会がわかりやすかった。	みんなのしむすめした。
算数	わからないうえにリーダーに教えてもらった。	線分図むすめした。
冬		冬
冬	し、かり話が聞いた。リーダーがやさしかった。	今日一日のあやとびかんばん。

欠席通信 月 日 曜日

年組 さんへ

今日の学校生活	1校時
	2校時
	3校時
	4校時
	5校時
	6校時

宿題	その他
持ってくる物	

友達

先生

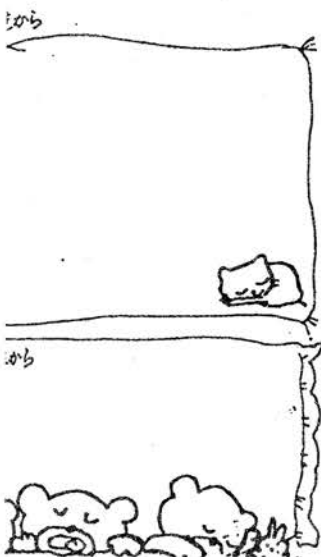
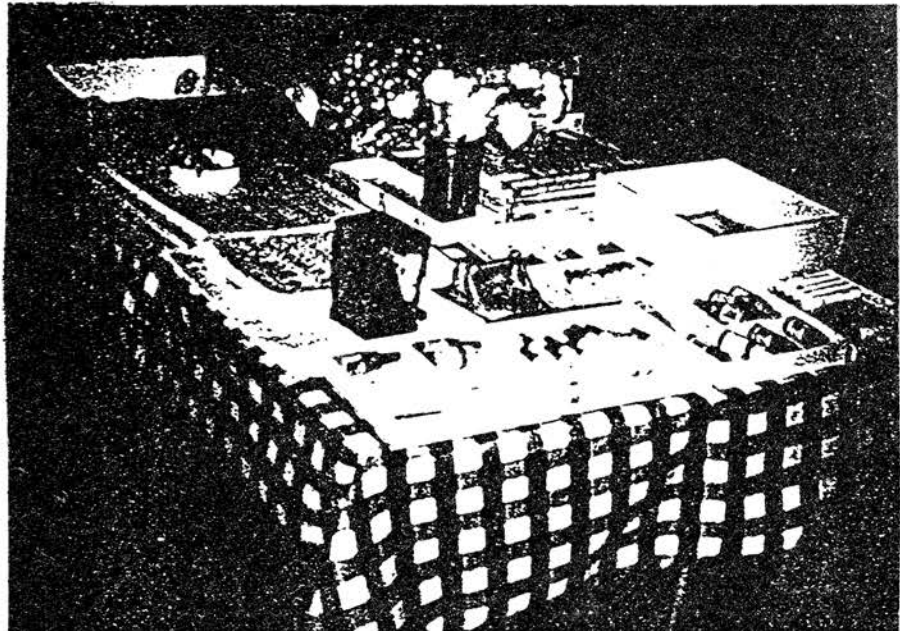
(5)年(1)組 おひび組

開こう あやとひが むすかしが た。	みんなで長 なわをしい しかた。
友達の感想 を閉けてよ かた。	グループで あらすじの 発表がむす かしかた。
グループで 見せ合いを して書いた のよかた。	かんはって 書いたりと きれいに書け なかた。
調家帰、てか く。親さを調 べたい。	よく発表が てきなかた わすれものを した。
説明がむ すかしがた ても、かんは た。	線分図で考 えたのでわか りやすかた。
員	会(かほら)
自分なりに かんはた 協力もでき た。	せいを正しく して、勉強下 きた。

座席表 5年1組 (市来学級)

男 ↑	↓	女	あ	ま	あ
女 ↓	↑	男	あ	ま	あ
あ	バス コーナー			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま
あ	↑			あ	ま

資料3



バズ学習のスタートにあたって（中学数学）

尼崎市立園田東中学校 原口 政一

1 生徒への願い

クラスのお互いが助け合うことによって、わかる喜びを味わい、教えることによって自分の理解度を深め、さらに、一層の成長を遂げてくれる生徒に育ててほしい。

2 バズ学習との関わり

現在中学校2年生担当であるが、それ以外の学年においても過去の経験から授業を受ける時点での理解にかなりの差があり、授業の1時間が苦痛の時間となっている生徒もいて残念な思いをすることがあった。

教師が、授業で指導した後、生徒に時間を与えて問題を解かしている間、机間巡視の中で質問に答えていると、時間切れで生徒の質問に全て答えきれないこともあった。そのたびに、何かいい方法はないものかと思案をしていた3年前の夏、名古屋のバズ学習全国大会の案内が目に入り参加した。それ以来、集団の中での個の高まりを目標にバズ学習を勉強させてもらっている。

3 指導の実際

（1）グループ編成

9月初旬4クラスをそれぞれ9つの男女混合班にわけると、

- ① 各自が一緒になりたい人の名前を黒板に書く方法（1クラス）
- ② 現在の座席をもとにして近くの者と一緒になる方法（2クラス）
- ③ 教師が意図を持って編成する方法（1クラス）

（2）活動状況

授業の進捗の関係もあり、12月までに4回程度バズ的手法を取り入れた学習を試みた。（主に練習問題や宿題の答え合わせをする時）

1年入学以来男女一緒の行動に慣れていなかったため、当初、席を一緒にくっつけることさえできない状態で、指導者から見ると教え合いも不十分であったが回を重ねるごとにスムーズに席をくっつけることができるようになった。

3学期以降積み重ねが非常に大切となる証明問題に入るので、バズ的手法を大いに活用していく予定である。

4 状況の考察

(1) 座席について

- ・①の方法は席が離れているので、バズになるのに多少時間がかかる。
- ・②の方法は話しにくい雰囲気がある。
- ・③の方法はスムーズにいつている班がいくつも見られる。

(2) 人数について

1グループ4・5人で9グループ組んだが、班の中でリーダー不足が見られるので6グループ程度の方がリーダー指導の上でスムーズに行くように感じられる。反面、グループの人数が多くなりすぎて話し合いが不十分になる点もある。

(3) 時間について

指導者・生徒とも慣れていないせいもあり、授業の一部をバズ的手法で進めようと考えていたのが、ずるずる多くの時間を使うことになって、そのしわ寄せとして段々一斉授業のウエイトが多くなってきた。バズでの時間厳守の必要性を強く意識したのでストップウォッチの活用も考えている。

(4) グループ編成全般について

バズ学習を能率よく進めるために、班のメンバーの中に数学のよくわかっている生徒を必ず入れて教師主導でグループを編成する必要性を強く感じた。

(3学期実施予定)

(5) 今後の課題

- ・2学期の終わりに、3学期に向けて2回目のアンケートをとりグループ編成を考えたが、固定化していく傾向があるので、誰とでも仲良くバズ的手法を取り入れた学習ができるようになるために相当の訓練と努力が必要である。
- ・原則として、授業の一部でバズ的手法を取り入れることを考えているので、授業の途中で班体形になったり一斉授業にもどすときのガタガタする音がまわりの教室に及ぼす影響が気になる。そのために、席が近いことが望ましいが、生活班と数学の班のメンバーが一致していないため難しい面がある。また、班学習をあまりしていない場合、授業時間内だけの指導に時間的な意味で限界がある。
- ・2人以上の教師で同じ教科・学年を持った場合、バズ的手法を用いた場合とそうでない場合で進度に差がでてくる可能性があるため、有意義な時間を過ごすためにも、教材の精選、班編成等に考慮する必要がある。

終学活におけるバズ学習の活用

尼崎市立大庄北中学校

井上 公哉

1. 地域・生徒の実態

大庄北中学校は、尼崎市の中央部西寄りにあり、校区は住宅が密集する地域で、北部にJR東海道本線が通っている。

地域には、工場や建設関係を中心とした現業に従事している人が多い。生徒の家庭状況は、共稼ぎや片親、生活保護家庭の割合が市内でも高い地域で、教育的には恵まれた環境とはいええない。保護者の学校に対する期待は大きいですが、過度の要求は少なくやや依存的なところが感じられる。それだけに、家庭での学習やしつけなど、わが子の対応の仕方に悩み・戸惑っている家庭が多くあるようだ。

生徒たちは、全般に性格的には明るく、活発で人なつっこい。反面、はじめに欠け、衝動的で持続力が乏しく、基本的な生活習慣の確立が重要な課題である。学力的には、小学校の基礎学力を十分身につけずに進学してくる生徒も多く、数学では特にその差が顕著である。また、学習習慣や意欲に乏しい生徒が多く、学力の向上・定着は本校の急務となっている。

2. バズ学習とのかかわり

本校では、昭和62・63年の2年間、地域改善対策の一環として、文部省の研究指定を受けた。その内容は、

「基本的人権の尊重を基調とした学習態度を育成し、学力の向上を図る」である。研究の取り組みの一方法として、全校でバズ学習に取り組み、上記の目標の達成を図ろうとした。具体的な取り組みとしては、

- ①励まし磨き合うバズ学習
- ②理解を深めさせるための授業の立体化
- ③家庭学習につなぐ「主題とねらい」のある授業

の3つを掲げて臨んだ。

私自身は、研究発表年に転任して来て初めてバズ学習を知った。バズ学習の理論をあまり理解することなく、日々の実践に取り組んだ記憶がある。研究発表後の平成元年、岐阜県土岐市立泉中学校で、研修する機会をいただき、全校挙げてのバズ学習の成果を目の当たりにして大いに感銘を受けた。しかし、残念なことに、その後本校では全校あげてのバズ学習の継続とはならず、先達者が個々に取り組んでいるのが実情である。

3. 終学活でのバズ学習のねらい

私は、生徒と生徒が互いに助け合い・支え合って活動する学級を作り上げていきたいと考えている。そのためには、教師が生徒の背後にあって支え指導する、ときには、生徒と共に行動して学級を盛り上げる。このような終学活での活動が、学習面や生活面にまで展開できたら学級がより生き生きとした集団になると思っている。

本校のような、教育環境の基盤の弱い学校にこそ、助け合い・支え合う学級集団の育成が必要だと考え、終学活に学級運営の重点を置いたバズ学習の活用を実践してきた。

4. 終学活におけるバズ学習の活用

現在本校では、終学活に15分の時間を配分している。しかし、授業直後やクラブ活動までの時間を工夫すれば、約30分の時間の確保が図られる。私の学級では、その時間を下のように活用している。また1週間の終学活の計画は、下の通りである。

〔終学活の流れ〕	〔1週間の計画〕
①明日の行事・授業の連絡・・・5分	金・・・週の反省と次週のテーマ探し
②今日のテーマについて ・個人思考・班でのバズ	土・・・班活動なし
③班ごとの発表	月・・・テーマの中から
④教師によるまとめ・・・5分	火・・・テーマの中から
⑤班ノートの提出（終了後記録提出）	水・・・班活動なし
	木・・・必要緊急な話題を中心に

話し合うテーマの具体例としては、

〔緊急を要する内容〕

- ・〇〇君が学校に来ないがどうしたらよいか。
- ・いじめにつながるような行為を感じたが、事実かどうか。
- ・掃除をさぼる人がいるがどうしたらよいか。などがあり、

〔学級集団を高める活動〕

- ・クラスのレクリエーションの計画をしよう。
- ・勉強会をしてはどうか。 ・朝テストのまとめをする。
- ・授業を集中するにはどうしたらよいか。
- ・体育大会の選手推薦・応援の計画。など、学校行事への参加では際立った。

5. 指導の効果と今後の課題

終学活へのバズの効用は、学級成員にとっては、

- ①1日の学校生活の終わりを、落ち着いた雰囲気の中で終える。
- ②明日の連絡（準備物・宿題など）が確実である。
- ③生徒ひとりひとりがじっくり観察でき、教師と生徒との信頼が深まる。
- ④生徒間の対話がふえ、学級がまとまる。
- ⑤生徒相互の交流によって信頼感が増し、よい学級の雰囲気ができる。

などがあげられる。問題点としては、

- ①時間の余裕が少なくなる。（課外クラブの参加や帰宅時間が気になる。）
- ②他学級生徒・クラブ生徒の羨望や苦情
- ③他学級担任、クラブ担任のバズ学習への無理解と非協力があげられる。

全般に、バズ学習の効用はあるといえるが、全校的な取り組みがなければ、その効用は半減すると言えよう。私の実践は徹々たるものであるが、今後協力者を得て、バズ学習の効果を学級・学校運営に生かされることを期待している。